



Q4 **コンプライアンスがなぜ顧客満足につながるのでしょうか。**



A4 **排出事業者にとって重要な経営課題となっているからです。**



巡回回収の際は荷台の2カ所に柱を建て、そこにロープを張って高所作業用安全帯をつけて作業を行う



高所作業用安全帯をつけて積荷のカバーを外す作業員（於：共同土木・千葉工場）

建設廃棄物の収集運搬には4トン～10トンのトラックの荷台の上での積み下ろしやクレーンのようなブームを備えた高所作業車での高所作業がつきものです。こういった車輛の荷台の高さは2～3mですが、これくらいの高さから転落して頭を打ったときの死亡率が一番高いのです。高所作業車では、上のほうをみて作業をするので、足元を滑らせることも多く、たかが2mという油断が命取りになります。

事故防止のため共同土木では安全

帯をつけることをルール化していますが、これは顧客からの要望でもありました。自社工場内では、停車スペースの上に柱があり、安全帯をつけて積み下ろし作業を行います。巡回回収の場合は荷台につけた2本の柱にロープを張ってそこに安全帯をつけます。この作業に最低7～8分はかかりますが、従業員の安全には変えられないのと、顧客の信頼の両側面から現場での周知徹底に努めています。

近年、コンプライアンス重視の傾向にあります。同じ建設現場で働く以上、労働安全衛生法などのルールを共有していきたいというゼネコンさんからの声に応えるかたちで、弊社でも安全対策を始めたのです。

しかし、始めたばかりの頃はなかなか浸透しませんでした。誰でも自分だけは大丈夫だと思いがちなのです。そこで、休日の野球クラブなど

若い社員が楽しみにしている社外活動で、決まりを守れなければクラブ活動は禁止するとし、公私問わずさまざまな場面で訴えることにしました。最近ようやく現場にも安全帯が浸透してきたところですが、安全への意識を高めることが大切だと思っています。

また、事故が起きてしまったときの周囲の心労を想像してみれば、安全対策は自分だけのためではなく、家族や職場の人たち、そして顧客のためでもあるということもわかってもらえるのではないかと思います。

6月16日に発足した「エコドライブ推進本部」が中心となって社内外の教育研修などを通じ、事故情報やヒヤリ、ハッと事例の共有を進め、最優先事項のひとつとして安全対策を充実させていきます。

現場編の「アドバイザー」

久米 直志氏 業務統括部
千葉中間処理工場・副工場長

共同土木

Company Profile ●本社：埼玉県上尾市。1973年6月設立（1965年創業）。“良い環境は、人々のモラルから創られます”を設立当初からのモットーとする。埼玉県と千葉県に中間処理施設をもち、収集運搬の配車予約から中間処理実績・情報管理まで、全工程をオンラインコントロールで一括管理する先進的システムをいち早く導入。包括的な情報管理システムにより、産業廃棄物処理業の信頼性向上への貢献を目指す。